

# ふくおかの経済

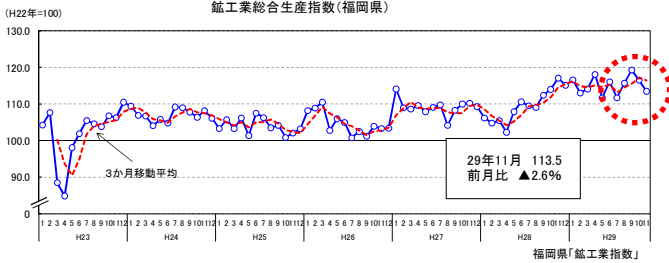
平成30年1月号



## 生産

高水準で推移しているが、一部に弱めの動き

11月の生産指数は、高水準で推移しているものの、輸送機械などの低下により、前月比で2か月連続低下しました。

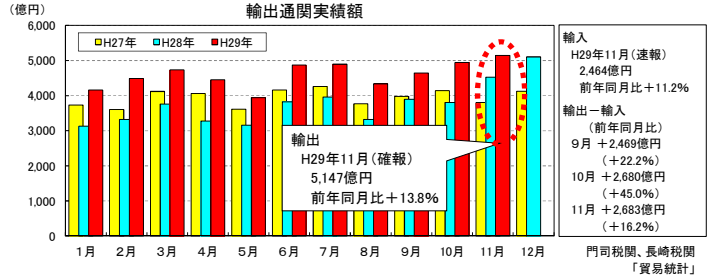


鉱工業生産指数は、平成22年の生産水準を100として、その変化を表しています。

## 貿易

輸出は増加、輸入は回復

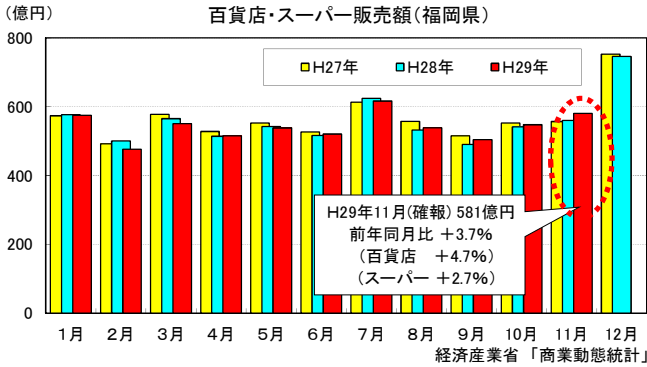
11月の輸出は、アジア向けの半導体等電子部品などの増加により13か月連続で前年を上回り、過去最高額となりました。輸入も、13か月連続で前年を上回りました。



## 消費

着実に回復している

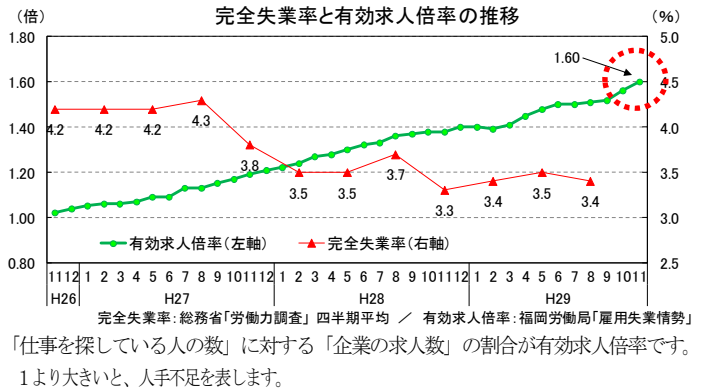
11月の百貨店・スーパー販売額は、地元球団の日本一セールや、気温の低下による衣料品の販売増が追い風となり、3か月連続で前年を上回りました。



## 雇用

着実に改善が進んでいる

11月の有効求人倍率は1.60倍で、昭和38年の統計開始以来、過去最高を更新しました。

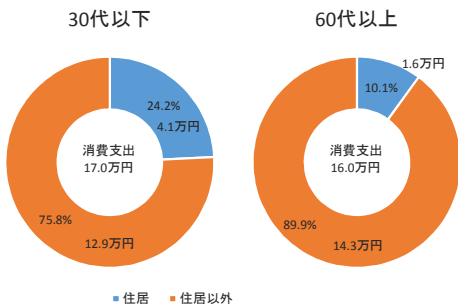


「仕事を探している人の数」に対する「企業の求人数」の割合が有効求人倍率です。1より大きいと、人手不足を表します。

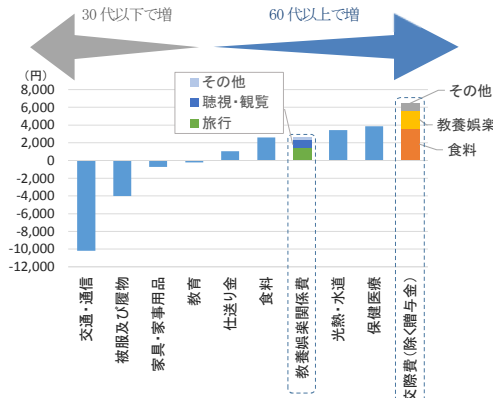
## 今月のトピック 増加するシニア女性単身者の消費の実態は？

- 社会環境の変化により単身世帯が年々増加しており、福岡県では単身世帯の割合は3分の1を超えています。女性の人口の割合が高い本県では、シニア女性単身者(60代以上)の増加が特に目立っています。
- シニア女性単身者の消費支出を、支出金額が同程度の30代以下の単身女性と比べると、住居以外に多く支出しており、交際費や教養娯楽費といったアクティブな活動の支出が高いことが分かります(下図参照)。
- 今後、シニア女性単身者のニーズに応えるサービスの充実・消費の拡大が期待できそうですね。

図. 若年層とシニア層の消費支出額の比較(全国・女性・単身世帯)



資料) 総務省「平成26年全国消費実態調査」



総務省「全国消費実態調査」は、家計の所得、消費、資産を知るために利用されている統計なのじゃ!

(トピック担当: 分析1班 山田)